

授業科目名	保健授業論	単位数	2単位
担当教員名	高木由起子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 保健の授業に適した教材を収集・選定できるようになる (2) 教材を活用し、論理的かつ効果的な授業展開を設計できるようになる (3) 「教える専門家」から「学びの専門家」となるよう研鑽する (4) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業デザインができるようになる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、保健の授業を実践できる力を養うことを目的とする。保健教育における教材の選定方法、授業の設計手法、学習者の主体を引き出す指導法を学び、実践的な授業づくりのスキルを身につける。単なる知識の伝達ではなく、学習者が能動的に学ぶことができる授業を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫を検討する。また、教師として「教える専門家」から「学びの専門家」へと成長するための視点を養うことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 保健授業の意義と目標を考える 第2回 教材の選定と活用を学ぶ 第3回 授業のデザインと教授方法を学ぶ(「主体的・対話的で深い学び」の視点) 第4回 健康と生活習慣の単元の授業をつくる 第5回 ストレスとメンタルヘルスの単元の授業をつくる 第6回 栄養と食事の単元の授業をつくる 第7回 喫煙・飲酒・薬物乱用の単元の授業をつくる 第8回 感染症と医薬品の単元の授業をつくる 第9回 交通事故・応急手当の授業をつくる 第10回 性教育の単元授業をつくる 第11回 環境と健康の単元の授業をつくる 第12回 労働と健康の単元の授業をつくる 第13回 メディア(SNS・情報リテラシーの重要性)を理解する 第14回 指導案の作成(授業設計) 第15回 まとめ 科目修得試験</p>			
<p>スクーリングでの学修</p> <p>「教える専門家」から「学びの専門家」となるようスクーリングを通して基礎を身につける。</p>			
<p>テキスト</p> <p>七木田文彦(2021)『保健授業の挑戦ー学びの創造とデザインー』大修館書店 9784469269055 『新高等保健体育「保体702」』大修館書店 9784469663204</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>森良一(編著)(2020)『中学校・高等学校 保健体育科教育法 改訂版』9784491039671 数見隆生(2011)『生きる力をはぐくむ 保健の授業とからだの学習』農文協 9784540011245</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)</p>			